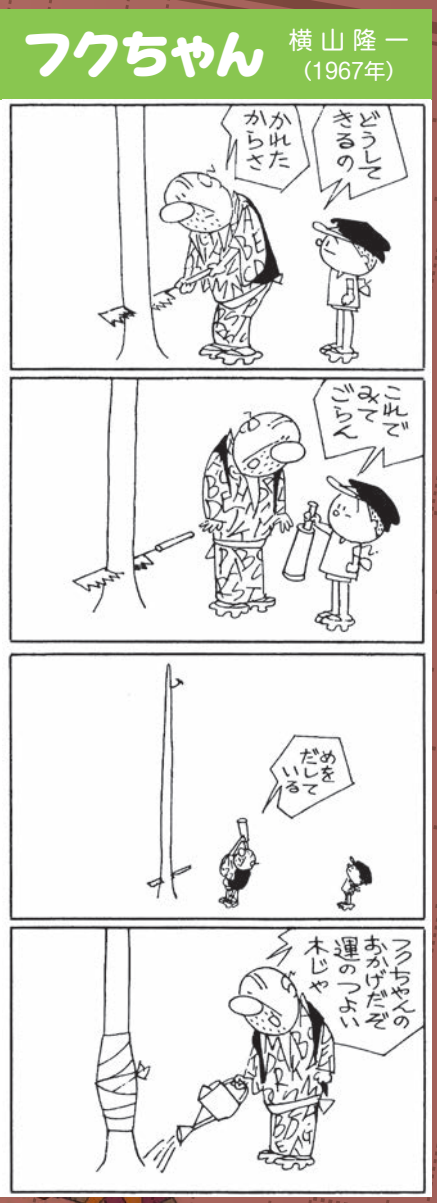
横山隆一記念 まんが館
YOKOYAMA MEMORIAL MANGA MUSEUM
館報
FUKU-FUKU
Vol.94

随筆をかく
鎌倉通信より

2026年は横山隆一没後25年を迎えます。「フクちゃん」を代表作とするまんが家として一世を風靡しましたが、一方で随筆もたくさん残しています。隆一曰く、「私は日記を書かない。日記の代わりに頼まれた売文が日記である。後で役に立つように、真実を書き残してある」とのこと。

晩年の随筆である「鎌倉通信」は、地元高知新聞に1994年から5年間連載された随筆であり、長年鎌倉に住む隆一と高知との繋がりも確認できるものとなっています。

企画展では、「鎌倉通信」に描かれた挿絵、随筆の内容に関係する収蔵品や関連資料を通して、隆一の交友関係やエピソードを回顧していきます。



開催期間●2026年4月25日(土)
～6月21日(日)
時　　間●10:00～17:00
観 覧 料●一般600円(480円)、高校生以下無料
※常設展と共通チケット
※(　)内は団体(20名以上)
※65歳以上の方及び身体障害者手帳(1，2級)、療育手帳及び精神障害者保険福祉手帳をお持ちの方とその介護者1名は半額料金
休 館 日●月曜日(5月4日は開館)
主　　催●高知市　横山隆一記念まんが館
主　　管●公益財団法人高知市文化振興事業団
協　　力●高知新聞社

第21回 まんがの日 記念

4コマまんが大賞作品展

報告と次回募集開始について

期　間●2025年11月29日(土)～12月27日(土)
場　所●横山隆一記念まんが館 企画展示室

「第21回4コマまんが大賞」に応募いただいた1,770点のうち、入賞作品を含む一次通過作品の175点と、前回の入賞作品・ギャラリー賞20点を加えた計195点を展示しました。会期初日には、審査員のくさか里樹さんにお越しいただき、表彰式を行いました。

また、今年も来場者の皆様にお気に入りの作品を選んで投票してもらい、得票数の多い作品に贈られる「ギャラリー賞」を実施。一般部門から6点、ジュニア部門から5点が選ばれました。横山隆一記念まんが館のホームページでは作品画像と投票の理由（抜粋）も公開しています。

そして、22回目の「4コマまんが大賞」作品募集が4月から始まります。詳しい応募要項は3月下旬ごろから公開の予定です。皆様の応募をお待ちしております。

ギャラリー賞　一般部門

◆「ハシビロコウ」　伊藤　文人

◆「少子化」　西脇　幸司

◆「春夏秋冬」　山西　万理

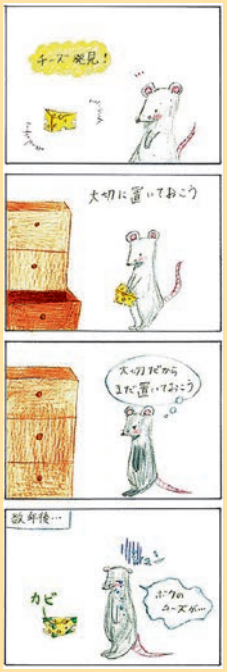
◆「昔は安かった」　P.N.こーじ826号

◆「高い」　P.N.ルーチン・ナカムラ

◆「そっちかよ!!」　P.N.もーちゃん

ギャラリー賞　ジュニア部門

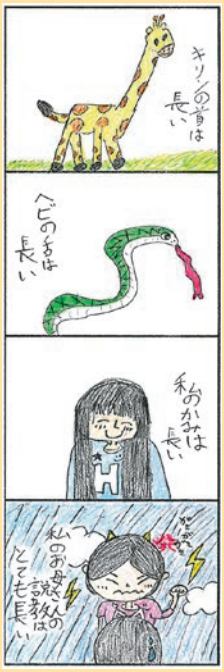
◆「チーズの大切さ」　阿部　杏樹



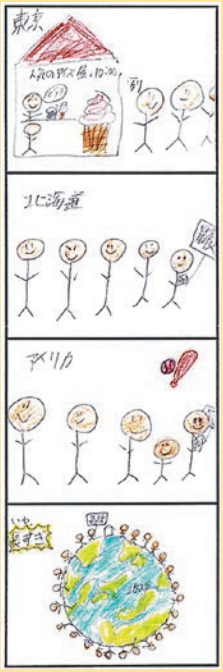
◆「中はなにかな?」　山田　和平

◆「イライラの原因」　熊思睿

◆「長～い」　武市　妃叶



◆「いやっ、長すぎ!!」　P.N.櫻井　桜



行事報告 REPORT

ジオラマと鉄道まんが展

期　間●2026年1月17日(土)～2月15日(日)
場　所●横山隆一記念まんが館企画展示室

横山隆一が鉄道模型のコレクターであり、大の鉄道好きであったことから着想を得た「ジオラマと鉄道まんが展」は、約1か月の会期で1，000人を大きく超えるお客様が来場するという、鉄道ファンのすそ野の広さを実感する企画展でした。

日本最大級のスイッチバック「JR木次線・出雲坂根」のジオラマを展示のメインにした「ジオラマと鉄道模型」コーナー、隆一の代表作「フクちゃん」の4コマまんがから鉄道・鉄道模型をテーマにした作品と、珍コレクションの中から電車・鉄道に関するものを展示した「横山隆一と鉄道」コーナー、鉄道まんがの複製原画とそこに登場する列車などの実物写真を並べて見せる「鉄道まんがと高知県を走る鉄道」コーナーの3部構成の中に、鉄道ライター横見浩彦さんの追悼コーナーやナノブロックで作成されたナノゲージ模型を自分で運転できるコーナー、実際の木次駅構内にある「き♡(すき)」の駅看板を模して作ったフォトスポットなどを入れ込み、見るだけではなく体験もできる展示内容としました。

フォトスポット

市内を走る広告電車

オープニング

1月17日のオープニングには、ジオラマ制作者の江上英樹さん、島根県から木次線利活用推進協議会の皆さんにも来高いただき、テープカットを行いました。江上さんによる『ジオラマ制作秘話』と『常設展示の鉄道ジオラマ「GARAGARA」をみんなで一緒に楽しもう』にも多くの方にご参加いただきました。模型というと実物をそっくりそのまま小さくする、というのが日本人好みだけれども、隆一はジオラマや模型も独創性があるところが面白い、という江上さんのお話がとても印象に残りました。持参の模型をジオラマで走らせることができるイベント「自分の車両をスイッチバックさせよう！」では、大人も子どももワクワクしながら順番を待ち、自分の模型が走る様子を、かぶりつくようにして撮影していました。その後も、「鉄道や模型好き」という共通点でつながった初対面の来場者が歓談したり、お昼休憩をはさんで終了時間まで親子連れがジオラマを眺めていたり、それぞれに展示空間を満喫していました。

最終日にも再び江上さん他関係者が集結し、来館者持参の車両を走らせたり、自動運転を使って2本の列車をスイッチバックで行き違いさせたり、夜行運転などの特別運行で盛り上げていただきました。

この企画展にはリピーターが多く、何度も来られて長時間ジオラマを眺める、という方がいらっしゃいました。また、企画展と併せて常設展示をご覧になるお客様の割合も高く、お子様連れの家族や男性が多い、という特徴も見られ、普段のまんが館への来館者層と違う方に横山隆一を知っていただく機会にもなりました。

1129人目の来館者

ジオラマ制作秘話

出雲坂根のジオラマ

まんがと私

元小学館「月刊IKKI」編集長
江上　英樹

「まんがと私」というコラムタイトルを見て、はたと考え込んでしまった。思えば40年もの間、まんが編集の現場にいたせいか、それが日常風景になりすぎて、まんがと自分の関係について、深く考えてこなかった気がする。

思えば学生時代の自分は、決してまんが読みではなかった。それが入社3年目にいきなり週刊まんが編集部に異動が決まり、まんが好きの友人を深夜のファミレスに呼び出して講義を受けたことがある。「今の流行りはバリバリ(しげの秀一『バリバリ伝説』のことと後に知る)だよ！」と力説されたり、「『めぞん一刻』もいいぞ！」と言われて「〝めぞん〟って何？（当時はアパートにメゾンという洒落た呼び名があることを知らなかった）」と返したりしていた。そんなヨチヨチ歩きからスタートした自分が、長くこの職場に足を下ろすとは思わなかった。

その理由を考えると「人間への興味」からというしかない。まんが家含めて、作家と呼ばれる人種には「曲者」が多い。もちろん、最近の作家は昔に比べれば、おとなしくなったと言われる。確かに毎晩銀座で豪遊するような破天荒なタイプは減ったと思う。しかし、創作という作業は、必ず「狂気」を伴う。アナログだろうとデジタルだろうとそこを避けて作品は生まれない(将来的にはAIが狂気を伴わない傑作をものにするかもしれないが…)。まんが編集者は、そのすぐ傍にいる。そしてその狂気に巻き込まれる。貰い事故に遭う。それを楽しいと思えるか、まっぴらごめんと思うか？――僕はたまたま前者だったということに尽きる。きっとこれは一生続くのだろう。うんざりとワクワクが交差する。

行事報告 REPORT

2025冬のまんが体験イベント「まんがで遊ぼう！プレクリスマス」

2025年12月20日(土)に、冬のまんが体験イベント「まんがで遊ぼう！ プレクリスマス」を開催しました。参加者は、4コマまんが大賞作品展のギャラリー賞に投票したあと、「まんがカレンダー」「まんが缶バッジ」「まんがクリスマスカード」「まんがクリスマスツリー」の中から、好きなものを合計4つまで作りました。

子ども達は、自分の好きなキャラクターを描いたり、お母さんやお父さんにプレゼントする！と贈り物として制作したりしていました。また、付き添いで来られたご両親が子どもより真剣に取り組んでいる姿など、参加者の皆さんそれぞれに楽しい時間を過ごしていただきました。

今年は50名ほどの参加となりましたが、来年はもっと沢山の方にご参加いただきたいと思っております。是非遊びに来てくださいね。

行事報告 REPORT

第9回お城下文化の日に参加しました

高知市中心部の文化施設が連携・協力し活動する団体「お城下ネット」は、毎年11月に「お城下文化の日」という「文化」をキーワードとしたイベントを開催しています。2025年11月9日(日)には「第9回お城下文化の日」が開催され、まんが館も参加しました。

会場となる帯屋町二丁目商店街アーケードでは、高知漫画集団の山北三砂子さんとクメヒロオさんによる似顔絵コーナーを実施し、たくさんのご参加をいただきました。

そのほか、お城下ネットの参加施設がリレー形式で帯屋町周辺を紹介する「お城下まちあるき」や、国際ふれあい広場と高知ベトナム交流会とのコラボ企画「当日限定スタンプラリー」に参加し、チラシの配布や景品のプレゼントを通じてまんが館のPRを行いました。

今後も多様な施設や団体と協力しながら「まんが」や「文化」を多くの方々と共有していきたいと思います。次回もお楽しみに。

大盛況の似顔絵コーナー！

行事報告 REPORT

ミニテーマ展示コーナー

まんが館の4階常設展示室にミニテーマ展示コーナーを設けています。不定期に展示替えを行っておりますが、今回は3月末までの展示「鉄道コレクション」を紹介します。2月15日まで開催していた、企画展「ジオラマと鉄道まんが展」のテーマとは少し違う視点で、隆一の持っていた記念切符に関する資料を展示しています。

半蔵門線開通記念切符セットや、切符に刻印された日付が特別な日であるものなど、当時の時代背景が見えてくるマニア必見の品々となっています。

4月からは、「葉書コレクション(仮)」を展示予定です。どうぞお楽しみに。

R7年度ミニテーマ展示タイトル	開催期間
寄贈品お蔵出しⅠ	2024年12月～2025年7月
隆一カメラコレクションVol.1	8月～9月
隆一カメラコレクションVol.2	9月～11月
隆一カメラコレクションVol.3	11月～2026年1月
「記念の切符」アラカルト	2月～3月

トピックス TOPICS

観覧料の改定について

高知市の公共施設使用料の見直しに伴い、令和8年4月1日より、まんが館の観覧料が改定されます。一般510円、団体400円、65歳以上250円、高校生以下無料。

また、かるぽーと地下駐車場の料金も改定となります。新しい駐車場の利用料は、午前8時30分から午後10時まで1台につき30分ごと100円、上限800円。午後9時30分から翌日午前9時までは1，010円となります。

館のご案内

開館時間 9:00～18:00
休館日 毎週月曜日(祝日・振替休日の場合は開館)
年末年始(12月28日～1月4日)

常設展示観覧料
一般410円(今年度は平日に限り320円)
団体(20名以上)320円・65歳以上200円・高校生以下無料
身体障害者手帳(1、2級)、療育手帳及び精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方とその介護者(1名)は200円

お問い合わせ先
〒781-9529 高知市九反田2-1
高知市文化プラザかるぽーと内
横山隆一記念まんが館
TEL:088-883-5029
FAX:088-883-5049
URL:https://www.kfca.jp/mangakan/
E-mail:mangakan@kfca.jp

横山隆一記念まんが館へは、高知市文化プラザかるぽーと3階の入口よりご入場ください。

新着図書(2025年11月～2026年1月)

高知出身まんが家
『深夜食堂』30巻 安倍夜郎
『Fate/stay night [Unlimited Blade Works]』7巻 森山大輔(漫画)、TYPE-MOON(原作)

オススメピックアップ！
『さかねとつむぎとキスキ線』 たこぱいそん(漫画)、ごとう隼平・松本勇祐(協力)
『ONE PIECE』112巻 尾田栄一郎
『圖の大魔術師』1～9巻 泉光(漫画)、ソフィ＝シュイム(原作「風のカフナ」)、濱田泰斗(訳)
その他、続々入荷中！

フク話わ内ラ

横山隆一記念まんが館4階常設展の入口に「カニバー」という巨大な絵画があるのはご存じでしょうか。縦3m×横4mの特大土佐和紙に描かれたカニの絵なのですが、ガリバーを模して「カニバー」と命名されたものです。
横山隆一が89歳の時の作品で、800匹ものカニひとつひとつに表情があり、洒落っ気があり、とても愛らしく、スケールに圧倒されます。と同時に、年齢を超越した隆一の壮大な創作エネルギーに驚かされます。
かるぽーとに来た時にはぜひ見てみてください。ぜひカニを眺めてください。(M)